

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4470103807
法人名	医療法人 博光会
事業所名	グループホームつかがわ
訪問調査日	平成19年 8月 7日
評価確定日	平成19年 9月20日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 4 7 0 1 0 3 8 0 7
法人名	医療法人 博光会
事業所名	グループホームつかがわ
所在地	大分市東春日町5-25 (電話)097-548-5122

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成19年 8月 7日	評価確定日	平成19年 9月20日

【情報提供票より】(平成19年7月23日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年 8月12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	16人, 非常勤 4人, 常勤換算 18.75人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	5階建ての	2階 ~	3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 200 円
	または1日当たり		円

(4)利用者の概要(6月11日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	5名	要介護4	7名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7歳	最低	69歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	矢野眼科 高橋歯科医院 塚川第一病院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. ホームは街や閑静な住宅街に近く、建物の前は緑に囲まれた静かな公園があり、お祭りの神輿や山車はホームの前に止まってくれ、利用者は窓から見る事ができる。
2. 地域との交流は活発であり、同じ棟にデイケア、地域密着型事業があり事業所内交流も活発に行われている。
3. 管理者は、人材育成が使命と考え、研修は積極的に参加し、日常では観察記録を提出し、ケアプランの作成についても厳しく教育している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で4項目の改善課題は、自己評価と全体会議で話し合い改善への取り組みを行った結果すべてクリアしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 2度目の外部評価であるが、全職員で自己評価を行い、日常業務の中で評価の意義を話しており、全体会議で確認している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では困難事例、改善策、現状報告を行い、意見やアドバイスを受けている。回を重ねるごとに意見も活発になり地域の人々の理解が得られているようで、年末に予定している忘年会にも運営委員に参加していただき交流を深めていきたいと考えている。市との連携も情報交換、報告等スムーズに行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族には月1回の現況報告をし、来訪時には十分な話し合いを行い全体会議や、日々のミーティングで改善に向けた取り組みをしている。年4回つかがわ便りを送付して、意見や苦情を聞く取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の方などによる電話での相談業務が月平均16~17件あり、管理者は適切に対応してアドバイスをしている。地区行事には積極的に参加し、公園清掃は地区住民とのふれあいの場として毎日行っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「目で見て」、「耳で聴いて」、「手をさしのべて」の理念を利用者の方々だけでなく、地域の方と触れ合う時も同じ思いで接している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会議、毎日のミーティング、職員採用時には、理念を浸透させる努力をしている。実践として花火大会に行く時は利用者に浴衣を着せて出かけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営委員会の提案で地区老人会が行っている公園清掃に参加し、ホームとしては毎日掃除をしながら地域の母親や、子ども達との交流をし地区行事である老人会の文化祭、運動会等にも招待され参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で行い、その後、全体会議をして確認している。昨年度の改善項目は全てクリアしている。日常会話の中で評価の意義を話している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には自治委員、民生児童委員、西地域包括支援センター、市介護保険課職員、利用者家族等13名が出席し、ホームの困難事例報告、改善策など毎回テーマを変え話し合っている。意見は活発であり議長は参加メンバーが交代で行う。運営推進会議の後、30分間法人介護部長が認知症や介護について最新情報を話している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との関わりは管理者が避難訓練の所要時間を報告したり、相談にも行き介護保険課の職員が運営推進会議にも参加してくれる。市や県外から市町村担当者が見学に来訪する。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回つかがわ便りを発行している。利用者の家族には月1回は状況報告をし、来訪時には個別に撮った写真でアルバムを作り日常の様子を見てもらっている。県外にいる家族には月1回、電話や手紙で状況報告や現金出納報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、ゆっくり話を聞き月1回の全体会議や、日々のミーティングで家族からの意見を検討し、改善に向けて取り組みをしている。意見箱も玄関に設置しているが、面談で何でも話せる雰囲気作りができていないため利用はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力少なくしているが退職者が出た時には、年次途中でも年齢や男女が片寄らないように配慮している。異動は法人内であるため利用者にとって全員顔見知りであるため不安やダメージはない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成が使命と考えており、研修には2名1組で参加し、思いを共有しフィードバックする方式である。採用時は毎月「行ったこと」、「感じたこと」をノートに記入し管理者がチェックする。研修や勉強会の都度、職員は感想文を書き管理者が確認している。夜勤明けに管理者が職員と個別に意見交換をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前には全職員で他施設の見学を行っていたが、今では見学での来訪が多く訪問は行っていない。グループホーム連絡協議会に加入し、バレーボール大会等に参加して交流はできている。	○	今後は、他事業所と1日～3日間の予定で職員の相互交換を行い、サービスの向上に向けた取り組みを検討中であり、結果が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症デイサービスを利用し、馴染んでもらったり、入居後は毎日自宅に短時間連れて行き、家族と相談しながら徐々にホームに馴染んでもらうための工夫をし、安心して利用できるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴から好みや、嫌なことを把握し、利用者の得意なことを学ぶなど日誌の中にも職員と利用者の支えあう日々を記録している。職員ヒアリングからも共に支えあう関係が理解できる。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が一人ひとりの2週間状態を見て記録し、「観察記録」をつけ状態を見てプランに上げる方式をとっている。言葉が殆んど出ない方の発語を記録し、希望の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式でケアプランを作成するが、家族、利用者の要望を聞き取りカンファレンス、モニタリング、プランの作成と全職員が関わり、担当者と管理者が介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスを3ヶ月に1度、全体会議を月1回、3時間くらい行っている。見直しは問題がある場合は随時に行うが、2週間の観察記録で介護計画を立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人が病院を経営しており医師、看護師と相談する等、ホーム内での治療が可能であり、入院した場合、早期退院の依頼、終末ケアの受入れ等の支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は法人経営の病院で受診している。眼科、皮膚科、脳外科等の院外受診は家族対応しているが、一人暮らしの人や状況によっては、スタッフが支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、家族や本人と具体的な話し合いをして同意書をもっている。マニュアルもあり十分な説明も行い安心して入居している。今のところ看取りの事例はない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を全職員で学びマニュアルもできている。利用者への言葉かけでプライバシーを損うことのないよう毎月の『接遇委員会』で徹底している。居室の見学で、むやみに部屋の中を覗かないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月間行事やその日の日程はあるが、常に利用者の気分や状態に合わせた柔軟な支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房から運ぶ手伝い、盛り付け、後片付け等できることは、職員と一緒にしている。食事は同じ物を一緒に食べ、さり気ない介助も行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決められているが、入浴時間は希望に合わせている。時にはデイケアの大きな風呂で温泉気分を味わって貰っているが入浴方法はブリコラージュ方式(1人の職員が全てに関わる)となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1日に1度は外に出て気分転換を図るようにしている。ホーム内では、書道、雑巾縫い、化粧(マニキュア)なども一緒に行っている。外食に出かけたり12月に忘年会を温泉施設で家族、利用者、職員とデイケアの人たちとドレスアップして、参加し盛大に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に合わせ毎日散歩をし、近くの神社、商店街のアーケード下などを歩き、公園の清掃をしながら小学生、保育園児、近所の方と話を楽しく過ごしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけていないが、開けたら鈴が鳴るようにしているため早目のキャッチができ、出かけた利用には職員が同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な避難訓練や、年2回の夜間集合訓練もありマニュアルも作られ利用者の安全対策はできている。運営推進会議で地域の方へも協力を依頼している。非常用備品については乾物、保存食、冷凍ご飯は用意しているが他の食品は病院の厨房で保管している。毛布等についても準備はできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分量のチェック表があり病気、体調に合わせて砂糖、塩分の調整をし、食事量の少ない人は、なるべく栄養剤に頼らず、好物を用意したり外食でバランスを取ったりと工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔馴染みの道具(黒電話器、釜、飯ごう、水筒)等カウンターに置き、利用者と昔話をする雰囲気作りをしている。壁飾りは季節の風物を布地で作ったタペストリーや浴衣を下げている。夏祭りの時、下げた浴衣を着た利用者の写真を撮り横に貼ってあった。ロビーには浴衣で作った暖簾も下げたあり居心地良く過ごす工夫は随所で見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	10ヶ所の居室を見せてもらったが、家族の協力により、昔の写真、使い慣れた家具を置き、その人らしい生活の雰囲気が感じられる部屋作りとなっている。カレンダー、時計も利用者の好みの物がかけられている。入り口の暖簾も家族の手作りや、好みの柄で居室を識別する配慮が見られる。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームつかがわ
(ユニット名)	グループホーム 萌・愛
所在地 (県・市町村名)	大分市
記入者名 (管理者)	小倉 礼子
記入日	平成 19年 7月 20日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	私たちはいつもやさしい「目で見て」「耳で聴いて」「手をさしのべて」利用者様への心の通った「ぬくもり」あるグループホームを目指します。この理念は利用者の方々が子供たち、地域の方々と触れ合う時も同じ思いで交流している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の会議、毎日のミーティング、新人職員採用時には理念を掘り下げ浸透させる努力をしています。また、何でもない時突発に理念について質問し、職員の意識の確認を行っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌、家族の面会時、ふれあいサロン、老人会等介護教室を行う時に説明し、理解して頂くよう努力している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中に近所の方が花を下さったり、商店街を散歩中に店主が声を掛けて頂いたり、また、挨拶したりと日々の中で地域の中に溶け込んでいる。管理者は地域の集会に出掛けているので、顔なじみが多くなった。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭、運動会等に招待され参加する。前の公園の掃除は老人会参加として引き受け毎日掃除する。その時地域の若い母親、子供たちと交流あり。保育園児が月1回訪問して下さる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学生、また、新規事業所職員実習生等を受け入れ、自分たちの勉強・成長に役立てている。管理者は地域の老人会、ふれあいサロン、民生委員会に出向き、介護保険・認知症について等の話を行っている。電話相談、面会等の相談内容が月10件ほどある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行い、その後会議して確認を行う。昨年度の改善点は全部解決する努力を行った。いつも日常会話の中で、外部評価の意義を話している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	改善策、困難事例、現状報告等を報告しご意見を頂く。回を重ねる毎に意見が活発になり、地域の方々への理解が深まりつつある。年4回行う。議事進行はメンバーの方が行っている。出席者も多く、欠席者は一人位しかいない。	○	毎回終了後地域の方々、ホーム側それぞれに利益のある内容となっている。今年度は12月に開く利用者、家族の忘年会に出席して頂き、交流会を開きたいと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は常に市に相談、報告を行っている。市の職員も一見は百聞にありと言って、他市職員と訪問して下さる。身が引き締まる思いで迎えています。事例報告もよく行うので、担当とは顔見知りとなっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行政等の勉強会に出席し勉強する時はあるが、全員が理解を深めるまではいってない。家族からの相談は1件あった。介護ホーム全体からみて、すでに1件のみ連絡を取り合っている。	○	介護マニュアルの中にあり、時折勉強しているが、今後は全員が理解を深めるよう更に勉強会を開く。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部勉強会等で学ぶ機会がある塚川のデイケア利用者の中で家族からの虐待があると思われる時は、包括、市に報告し調査を行っている。利用者同士の暴力行為がある時、その都度対策を考え改善方向に向けている。	○	利用者同士の言葉の暴力も重く受け止め、穏やかで居心地の良い環境作りに努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族、ケアマネを含め十分な話し合いを行っている。また利用者の状態変化が激しく重度な場合は、家族と面談を行い納得するプランを考え、経過報告を行っている。特に医療との連携体制については、説明し同意書を頂いている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々のケアの中で利用者の悩み、不満を聞く体制を整えている。自分の意見を出せない方の場合は、行動を細かく観察し職員内で申し送り時、または会議等で話し合いケアに活かしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>盆・正月には、職員と利用者から家族へ手紙を出している。県外の家族には、電話、手紙等で月1回程度状況報告をしている。現金出納簿、ケース記録等面会時に見て頂き印を押して頂いている。個別アルバムからも、日常生活を感じて頂いている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御意見箱は玄関に設置している。家族の面会時にはゆっくり話す時間を設け、悩み、世間話を良く行っている。家族からの意見は月1回の会議、日々のミーティングにて伝達する。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の会議では運営方針を話したり、毎日の夜勤報告の時、1人1人の考え、こだわりを問い出しそれぞれの力を充分発揮出来る雰囲気になるよう努力している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務調整は職員の要望を出来る限り聞き、働きやすい職場作りをしている。利用者の為の行事に合わせた勤務表も柔軟な対応となっている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は極力少ないようにしている。日頃から職員は18人の利用者から覚えて頂くよう声掛けを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	他事業所からの来訪は多いが、今後は他事業所へ訪問する機会を設けていく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	塚川の4つの事業所を説明する。家族の状況、利用料、介護量、そしてそれぞれの事業所の内容を説明し、家族の自主的判断により決定する。家族が選択肢できる体制に整える事が出来ている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームに入所しながら毎日家に帰りひと時を過ごす等、個別対応を行う。認知症デイサービスを利用しながら順番を待ち、グループホームに入所する方法も実施している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式のケアプラン作成の為、いつも利用者の方が喜ぶ事、悲しい事、不安な事を聞く姿勢を持ち、プランを立てケアに生かしている。料理、昔ながらの遊び等を教えて頂いて、共に喜び、感動を分かち合っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子をいつも話し、特に良かったことについては共に喜び合っている。またどのような小さな事も家族に相談し、報告して意見を取り入れている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	県外にいる家族に電話、手紙にて現状説明を行っている。昔の話をよく聞いて日頃の会話に取り入れている。来訪された時は、サンルームでゆっくり過ごして頂いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の墓参りに行き、住職より若い時の話を聞いて涙することもあり。利用者1人1人の生活場所へ個別対応で出掛ける。家族が迎えてくれて楽しいひと時を送ったこともある。地域、お店、オアシス等毎日の様に出掛けて社会参加している。	○	現在行っている以上に、今後も家族と相談しながら積極的に馴染みの場所へ出掛ける努力をする。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	9人の仲間からいつの間にかそれぞれ落ち着ける相方が生まれるようです。その関係をいつまでも見守れる様配慮している。利用者の方で何人かは自分の役割があるので、尊敬の念を持ってお礼、励ましをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設、病院に移行後も電話のやり取りを行ったり、退所後家族が遊びに来て頂く事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の理念をプランのみにならないよう、日々のケア理念まで浸透しなければならない意義をスタッフには教育を行うようにしている。	○	最近少しずつ、センター方式の理念が日々のケアに生かされなければならない事を理解出来ているが、今後は更に深めて利用者1人1人の思いを大事にしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、家族、ケアマネから情報を得るようにしている。入所後センター方式Bシートに家族より細かく記入して頂く。入所後も面会時には楽しく明るく昔話をするようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録、生活上必要な記録により、個人の生活リズムを知り得る。生活上において心配事があった時はすぐケアカンファレンスを開き、処置方針を立て2週間の観察記録をつけ、更にカンファをする。この旨は家族に必ず報告する。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式にてケアプランを作成。3ヶ月毎の見直しを行う。その度家族、本人の要望、聞き取りを主としカンファレンス、モニタリング、ケアプランを作成する。職員全員が関わるようにしている。その後は担当者と管理者がじっくり考え、介護計画を作成する。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間3ヵ月後。現状に大きな変化があった場合は2週間の観察記録を基に、介護計画の立て直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にすべての個人情報をもとめている。家族よりの希望があれば、記録においても細かく開示している。。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院が経営の為、医師、看護師と相談し、なるべく入院せずホーム内の治療方法を検討する。万が一入院となると早期退院を依頼する。終末ケアをグループホームでの受け入れをして、現在も何人か希望している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、民生委員との協力、運営推進会議上での意見をケアに生かしている。保育園、学校等からのボランティア月1回。地域のボランティア月1回あり。利用者の方々の良い刺激となっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同事業所(デイケア)の温泉を利用して気分転換を図る。理・美容院は本人の行きつけや理解ある美容院まで出掛けている。町内会の文化祭にも参加し、地域の交流を深めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に、包括支援センターの職員が参加して意見をもらう事が出来ている。塚川全体では、包括と相談したりされたりと信頼関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人の為、受診については問題ない。院外受診については家族同行である。また当院での受診も受診後も報告している。尚受診については、契約時説明を十分に行い納得して頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当院の副院長が心療内科専門医のため、常に状態報告し、指示助言をもらっているため家族からも安心して頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当院の看護師、同じ建物に設置されている。訪問看護ステーションの看護師との連携が密にとれている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・他病院に入院した場合も病院を訪問し、状態を聞いた上、早期退院を依頼している。 ・当病院に入院した時も毎金曜日に行われている、医療、介護のカンファの中で早期退院に向けての話し合いを行う。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算の説明をする時、同意書を頂いている。家族、医師、管理者と充分話し合いながら安心して頂く。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末ケアについて家族と充分に話し合い、その旨を当院の医師、看護師と意見を共有している。現在2名の方が終末はグループホームでと希望されている。医師と連携を取りながら点滴を行い、体力維持につなげている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・これまでに1名、他グループホームへ移行する。 ・情報提供を行い、他管理者と面接し、きめ細かい点まで伝える。 ・移行後も電話で様子を伺うようにしている。	○	移行する前後は、十分に情報提供している。移行後、電話連絡はしているが面会に行くまではしていない。今後は、幸せに暮らしているかまで、面会に行くようにしたいと思う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護法を職員全体で学び、個人のプライバシーを損ねる言葉かけをしないよう努力している。 見学者を案内する時も、むやみに部屋の中を覗かないよう注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	散歩に行きたい方の希望をとったり、おやつ時の飲み物を自分で決めたりと、日々の生活の中で本人の意思を大事にするケアを行うよう努力している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月の行事計画、その日の大まかな日程はあるものの、細かい流れは利用者の気分や状態に合わせて、柔軟な対応に努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・入浴前の衣類出しは、本人と一緒にやる。 ・美容院、理容院は、ほぼ固定しているが、利用者によっては本人の行きつけに行く。 ・口紅、マニキュア等本人と楽しみながらおしゃれをしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・料理方法、後片付け等手伝って頂くのではなく教わる気持ちで共に行っている。 ・食事、おやつなど利用者と職員共に味付けの話等をして食す。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・ビールが好きな方は一緒に酒屋に行き、ビールを買い求め夕食前に飲んでいる。 ・嗜好に合わせた外食に行ったり、買出しに行ったりと日々の生活を楽しくして頂いている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表、又本人の行動、しぐさを見逃さないようにして誘導を行っている。尿意、便意がなくてもリハパン又は普通のパンツで対応。安心のためにパットをしようしている方もいる。 ・排泄を失敗することで心が落ち込む理由になるので、その時の対応方法等の勉強会を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・大体の入浴日は決めているが、時間はその時の気分により早い、遅いは対応する。時にはデイケアの大きい風呂で温泉気分を味わって頂いている。 ・プリコラージュ方式での入浴方法。	○	入浴時間は本人の希望に合わせているが、夜間入浴は希望者もない事もあって行っていない。今後希望を取り希望者があった場合検討する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・暇眠チェック表をつける。 ・不眠時の場合の対応 ・ホット牛乳を飲む ・足浴 ・日中の外出、日光浴 } などで入眠を促す工夫を行う		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・1日1回は外に出るようにしている。散歩、神社、海と色々な場所に出向き気分転換を図る。 ・外食、レストランなどに出かける事も多い。 ・個人の役割を尊重し、感謝の気持ちを伝える。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物に出かける場合は、本人が支払うように見守りを行っている。 ・家族の了解を得て、自分で管理されている人もいる。 ・なるべく、買い物を通じて社会参加出来る機会を多くしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・本人の状態に合わせて1日1回以上は外出し気分転換を図っている。 ・計画のある時、ない時といろいろな外出を行っている。 ・雨の時は当ホームの他事業所と交流を図っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・墓参りは個別に行っている。 ・計画付の外出は、希望を取り家族に声かけし行動する。個別の外出は、その時に行きたいと言われた時に出かけるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	奥様、姉さんと文通を行っている。手紙は大事にコルクボードに貼り、いつも楽しめるようにしている。電話においては自由に掛けている。いつまでも家族とつながっている安心感を持って頂く努力をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者はとても多いが、知人・友人は限られた利用者のみである。訪問時はサンルーム、または居室にて過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の介護マニュアルを作成し、勉強会を開いている。脚力低下、不用意に立ち上がる人も安易に車イスにせず、常に職員が手をつなぐ等して見守る。ベットから転落しそうな人も、畳にする等してケアに工夫をする努力をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、いつでも出入り出来るよう玄関の鍵を掛けないようにしている。見守りの必要な人が居るので、玄関が開いたら鈴が鳴るよう工夫し早めのキャッチをしている。	○	日中鍵を掛けないようにしているが、職員が手薄になりトイレ誘導に入る時のみ一時的に鍵を掛けるときがある。今後このような時の工夫を考えてゆく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にホールに職員がいるようにしている。ケース記録記入時は全体が見渡せる場所で行う。夜間は2時間毎、随時の見守り又、休憩もホールで行いちょっとした物音も敏感になっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所用の洗剤、包丁、洗濯の洗剤は、利用者の手の届かない場所で管理している。針、はさみ等日常生活の物は、いつでもすぐ出せる場所に保管している。利用者1人1人危険状態を把握し、見守っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット委員会を設け月1回会議を開き、その内容を各ユニット会議に提案、報告する。ヒヤリ・ハットは毎日記入→インシデント記入→現場検証→ケアの改善→他職員への伝達。このような方法で取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員が消防署の職員により心肺蘇生法・事故発生時について等学ぶ。また2名の職員が3日間コースの勉強会に行き、他職員にも伝達している。	○	昨年指導された分野の為、今年度は消防署の救急隊に来て頂き、心肺蘇生法を学ぶ。また2名の職員は3日間コースの勉強会に行き、他職員にも指導している。今後も定期的に訓練する計画を立てる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の通報訓練、年2回の夜間自宅から駆けつける訓練を行い、1人1人の登院到着時間を計測する。利用者を避難場所まで誘導する訓練等を行っている。災害マニュアル作成し、毎月1回訓練を行い利用者の安全対策に心掛けている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	運営推進会議、及び家族には高齢者はリスクを伴いながら生活をしているが、当ホームは抑制せず日常生活を送っている旨を説明する。1人1人の危険度は把握して、早目の対応を行うよう努力している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化時は管理者に報告し、指示のもとで行動する。内容によっては受診、家族に報告する。個人の受診記録簿、バイタルチェック表、日々の申し送りで、個人の状態を把握して判断材料とする。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬ファイルを作り、いつでも見れるようにしている。また、個別の薬箱を作り、定期的補充チェックを行いミスのないよう努力している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を目的とし、個人の排便チェック表作成、水分・牛乳の飲用、腹部マッサージ、運動、トイレ誘導等なるべく自然排便につながる工夫を行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、入れ歯の洗浄を行なっている。介護マニュアルの中に取り入れ、口腔ケアの重要性を機会ある毎に勉強している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量、水分量のチェック表をつけている。食事量が少ない場合は、すぐ栄養剤補給または、本人の好物を用意する。外食をする等工夫し、少しでもバランスの取れた食事をして頂くようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症委員会を設け、病院と連携し勉強会を開いている。また、マニュアルを作成している。特に冬の時期になると、職員間で予防対策等を早めに考えて行動する。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ハイター消毒、日光消毒、熱消毒等の方法で定期的に行い、衛生管理に努めている。冷蔵庫の掃除もいつもきれいにし、賞味期限切れ等のチェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先は安全な状態で靴を履けるよう椅子を置いている。下駄箱は生花、コーヒー豆を置く、飾り物を置く等して、明るい雰囲気になるよう工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔なじみの道具、電話等を飾り、利用者と共に昔話をするきっかけ作りをしている。飾り物は温かみのある布で利用者と共に作り、季節感のある飾り付けにする。家族に依頼し、着物を壁に飾ったりする工夫も行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、居間(ソファ配置)、食堂のテーブル周り、サンルーム等、その時の気分により過ごせる居住空間を設けている。特にサンルームからの外観は落ち着ける場所となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の部屋は家族に依頼し、昔の写真、飾り物等を持って来て頂き、本人好みの飾り付けをしている。部屋の入り口の暖簾は家族の手作り、または本人の好みのものを用意している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	早朝、日中に全体の換気を行う。また、常時換気扇をつける等して匂い、空気の上よみには常日頃から気をつけている。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が参加しやすいアイランドキッチンを使用しているので、和気あいの雰囲気ですり作りを行っている。和室の上り口の手すり、廊下、トイレの手すりをつけ、安全の状態ですり出来るよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	見当識障害の方が多いので、昔からの言葉で表札をつけ分かりやすいようにしている。常に利用者の日々の行動を観察し、安心、安全な生活が送れるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭が無いので、ベランダに花、トマト等を植えて楽しんでいる。前の公園を利用して、散歩、掃除、遊び、犬とのふれあい等、様々な場面で活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		<input type="radio"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		<input type="radio"/> ③あまり増えていない
		<input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームつかがわは、海・河・街・山と環境に非常に恵まれた場所に設置されています。また、事業も地域密着型事業を同じ棟に3事業所を持ち合わせています。このように社会資源の活用、事業所内の交流、又、地域との交流が活発で日々の生活が活動的なグループホームです。私たちはいつも利用者の楽しい、悲しい、嬉しい「思い」は何だろうかと感じながら、そして笑い声が絶えないグループホームにしたいと思い日々の生活を支援しています。